

# 千々石地域審議会

## 提 言 書

平成26年3月12日

はじめに

雲仙市は合併から8年が経過し、雲仙市総合計画に掲げる市の将来像「豊かな大地・輝く海と、ふれあう人々で築く、たくましい郷土」の実現に向け、市民が主役・市民総参加による、市の総力を結集したまちづくりが進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち千々石地域審議会委員15人は、平成24年7月に市長から委嘱を受け、第4期の委員として活動を始めました。市の総合計画や地域振興計画、前委員の提言書などを基に、千々石地域の課題について審議を行い、地域審議会の趣旨である、合併後も地域住民の声を新市の施策に反映させるため、「地域審議会の設置に関する事項」第3条第2項の「審議会は、必要と認める事項について審議し、市長に意見を述べることができる」を根拠として、千々石地域が抱えている課題について、具体性・効率性のある解決策について、市長に提言することとしました。

以降、提言書の作成に向け定例会を5回開催し、地域の様々な課題を市民目線で見つめ、現状と課題を踏まえた解決策について審議を行った結果、地域住民が生涯にわたり定住するまち「住みたいまちづくり・住みやすいまちづくりについて」、公共施設の空きスペースの活用として「千々石庁舎3階部分等の開放について」をテーマとした、提言書を取りまとめたところであります。

委員一同、地域の課題を少しでも改善していただきたいとの思いを込め、まとめておりますので、「住みたい・住みやすい」まちづくりの実現に向けて、千々石地域審議会として提言いたします。

平成26年3月12日

雲仙市長 金澤秀三郎 様

千々石地域審議会

会長 古賀 大八郎



## 提言1 『住みたいまちづくり・住みやすいまちづくりについて』

### 1. 現状と課題

本地域は、美しい海と緑深き山々に囲まれた自然豊かな環境を有した地域であり、千々石海岸（日本の白砂青松百選）や千々石断層（ジオパーク構成資源）、豊富な水量と良質な湧水（雲仙岳に囲まれた自然豊かな地）、日本の棚田百選に選ばれその棚田で育まれた棚田米など、風光明媚で自然豊かな農漁村地帯となっております。

しかしながら、本地域の人口は、平成22年の5,000人（国勢調査時）から10年後の32年は4,065人、20年後の42年には3,223人に減少すると推計されており、市全域の減少率よりも大きくなっております。原因として、一次産業の不振による後継者不足や従事者の高齢化など就業者の減少が著しいことが考えられます。

また、本地域では近隣の郊外型店舗の進出による商店街の衰退などにより、買物難民対策が課題となっており、地域コミュニティーについても、自治会を中心に活動を行っているものの、地域の人との繋がりの希薄化等により、祭りやイベント等の開催が少なくなっていることが課題となっております。

### 2. 提言

少子高齢化や人口減少が進む本地域において、地域住民が生涯にわたり定住するまちとして、『住みたいまち』で『住みやすいまち』づくりのため、次の5つの視点から取り組む必要があります。

#### 《住みたいまち・住みやすいまちのための、5つの視点（要素）》

- ①地域資源（自然環境、文化、伝統）
- ②人的資源（コミュニティー）
- ③活動拠点（仕事、余暇、生涯学習）
- ④暮らし便利（暮らし環境、交通）
- ⑤安心・安全（防災・防犯）

具体的には

- ①・地域のイベント開催や、スポーツ・祭りなど交流事業に対し支援を行い、地域の伝統・文化の繋がりを強化する必要があります。
- ②・地域活性化の場所となる、イベント会場のグラウンド等の施設の維持管理について、今後は行政のみならず、地域住民が一緒になって草刈や清掃など維持管理を行い、地域コミュニティーの場を確保し、活性化を図っていく必要があります。

- ③・農水産物の有利販売に向けた高付加価値化・ブランド化の推進と、その販路拡大に向け積極的なPRを行う必要があります。
  - ・市民を新たに雇用する市内事業所には奨励金を支給するなど、地場産業の振興による定住促進に向けた取り組みが必要です。
  - ・地元で買物をする取り組みや、高齢者等で交通手段をもたない買物難民対策として、商工会等と連携し、宅配事業サービスを構築する必要があります。
- ④・転入世帯等に対し、下水道整備に係る負担の軽減や住宅取得に対する補助をする必要があります。
  - ・保育園について、時間の延長や病気時の対応など保育内容の充実を図り、子育て世代の負担の軽減と、子育てしやすい環境をつくる必要があります。
  - ・地域の高齢者や地元出身のシニア世代がUターンして活動できる場として、また、豊かな経験・知識を活かせる場及び、地域の見守りや子育てサポートなどの活動できる場を確保する環境づくりを支援し、いつまでも元気な高齢者を増やす必要があります。
  - ・国道57号の拡幅や登坂車線の整備を行うとともに、信号機の連動化などにより渋滞を解消し、県央地域への交通アクセスの向上を図る必要があります。
- ⑤・危険家屋の解消、及び危険家屋にならないようにするためにも空き家を利用し、地域の方が集まり、会話ができ、地域住民の健康等も確認できるような場所の確保など、安心・安全な地域づくりが必要です。

## 提言2 『千々石庁舎3階部分等の開放について』

### 1. 現状と課題

少子高齢化や核家族化などの進展、急速に進む情報技術の高度化、さらにはライフスタイルの変化や価値観の多様化など社会を取り巻く環境が大きく変化しています。

本地域においても、このような社会の変化に伴い、地域における人間関係や連帯感の希薄化などが見られることから、地域コミュニティーの再生は大きな課題であると考え、地域の人々が集い、学び合う互助社会づくりの拠点として、公民館が地域課題の解決の場として、その役割を担っていくことが求められます。

千々石町公民館の利用は、サークル活動（約 20 部＝月 3 回平均）や公民館主催事業として市民講座・公民館講座（年間約 60 講座）及び文化的な事業等が実施されています。

しかし、千々石町公民館は手狭である上に老朽化も進み、エレベーターの設置もないことから活動に制約を受けており、今後の更なる拡充発展のためには、公民館の施設等を整備することが課題となっております。

## 2. 提言

新規の整備が難しい今、既存施設の有効活用の面から、現在使用されていない千々石庁舎 3 階部分を公民館活動及び生涯学習の場として開放することで、今まで高齢者等が階段により利用しづらかった公民館のホールに代わり、エレベーターにより容易に利用できることから庁舎 3 階を市民開放スペースとして整備することを要望いたします。

具体的には

### （1）旧千々石町議会議場について

千々石町公民館は、演奏会、弁論大会、演芸会、講演会などに講堂を使用しており、床がフラットであるため、発表や鑑賞の場としては不十分であるが、旧議場は床面がスロープになっているので、それを最大限活かした席の配置とステージの増設（旧議長席後方の通路まで拡げて）により、200 席以上の多目的ホールとして使用できるよう改修を要望し、演奏会、演芸会、講演会、意見発表会、映写会等さまざまな用途に活用したいと考えます。

### （2）旧議員控え室フロアーと和室について

①議員控え室フロアーは、現状のまま談話室、会議室として活用したいと考えます。

②千々石町公民館では、1 つの和室を 4 つのサークルで使用しており、部屋が不足していることから、現状のまま開放し、舞踊、茶道、生け花、囲碁等のサークル活動の場として活用したいと考えます。

### （3）会議室について

千々石町公民館では、諸会合に使用できる部屋が 2 室で、20 人位の会場の使用頻度が高く、使用期日や時間帯が重なることが多いことから、期日・時間等の調整が必要になり、利用者に不便をかけているため、旧議場に附設された会議室の活用により、それらの解消を図りたいと考えます。

### （4）千々石保健センターについて

千々石保健センターの調理室を市民へ開放することで、千々石町公民館で使用できなかった台所の問題が解決できます。